

秋田大学 正 員 清水浩志郎
 秋田大学 学生員 林 達夫
 秋田大学 学生員 ○中川 圭正

1.はじめに

地方都市において、従来の自然発生的な商店や商店街では、近年にみられる商業構造内部での変動、地域構造の変動、消費者ニーズの変化に対応しきれないことから商店街の再整備、近代化が進み、商業の活性化が図られている。秋田市でも、秋田駅前商店街を中心とした再開発により、大型店舗の導入、地元商店街の集約化が進み、商業環境の変容には著しいものがある。¹⁾そこで、今後の都市計画における商業形態を考えるうえで、このような商業環境の変容に伴う買物客の買物行動や商店街利用特性を把握することは重要なことである。

本報告では、以上の認識に基づき国鉄駅前商店街における買物行動や商店街利用特性をアクセス交通手段別に、とくにそのなかで自転車利用者についての把握を行なうことにする。それは、昭和58年10月、秋田市全域において実施した交通実態調査(有効サンプル数900票)によれば、買物の場合の利用交通手段が、自転車31%、バス30%、徒歩18%、自家用車14%と自転車利用の割合が高かったことによる。²⁾

2.アンケート調査による買物特性

調査は、平日分として昭和59年10月12日(金)、休日分として10月7日(日)の2回、国鉄秋田駅前周辺の4つの主要な自転車駐輪場で、その利用者に対してアンケート調査(有効サンプル数、平日 508票、休日 495票)を実施した。以下その分析結果について述べる。

自転車利用者のうち買物を交通目的とする者は、休日56%、平日37%と休日が多く、その構成比を表-1に示す。構成は、休日で主婦・家事手伝い25%、会社員・公務員22%、高校生20%、中学校16%であり、また、平日で主婦・家事手伝い52%、中学生15%、短大・大学生8%、高校生7%である。全体として、主婦・家事手伝いの買物による利用が高く、平日では半数以上を占めている。平日と比べて休日では、会社員・公務員、高校生と中学生の利用が高い。

図-1に秋田駅前周辺の商店街の分布を示した。こ

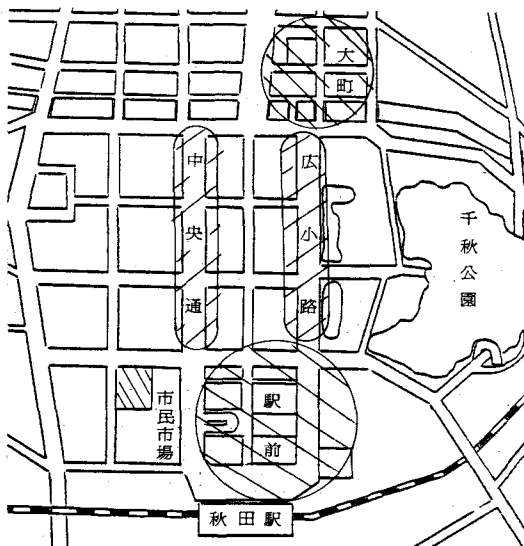


図-1 秋田駅前周辺の商店街分布図

表-1 買物客の構成比 (%)

職業 調査日	中学生	高校生	短大 大学生	会社員 公務員	商・工主 か・ビズ 自営業	主婦 家事手 伝い	その他	計
休 日	16.1	20.1	8.2	21.9	3.6	24.7	5.4	100.0
平 日	14.7	7.4	8.4	6.8	2.1	52.1	8.4	100.0
計	15.6	14.9	8.3	15.8	3.0	35.8	6.6	100.0

これらの商店街は、市内で最も高い商業集積を擁しており、中心的商店街に位置づけられている。(対秋田市内で、商店数約4%、売場面積約34%である。)

休日における買物客の利用商店街、商店街別の品目、商店街別の選択理由を示したのが、それぞれ図-2、表-2、表-3である。休日において1番目の利用商店街は、駅前が86%と高く、ついで広小路の9%である。2番目の商店街への回遊は、全体の37%であり、そのうち駅前67%、広小路22%の順である。とりわけ駅前地区の利用が高く、85%が駅前商店街内での回遊である。それに対して、広小路では、2番目回遊地としての利用が多く、利用客の92%が他の商店街からの回遊である。品目と選択理由からみると、駅前では、最寄り品(食料品・日用品)が48%、買回り品(最寄り品以外の品目)が44%とほぼ等しく、「商品の種類

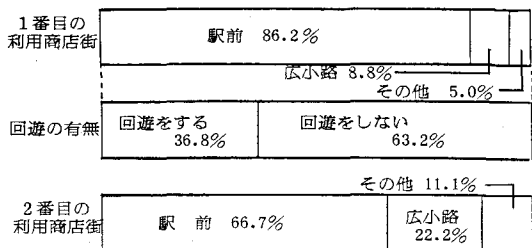


図-2 買物客の利用商店街 (休日)

表-2 商店街別品目 (休日)

品目	(%)			
	最寄り品	買回り品	飲食その他	計
駅前	47.7	44.0	8.2	100.0
広小路	14.8	70.4	14.8	100.0
その他	34.5	31.0	34.5	100.0
計	42.8	46.4	10.8	100.0

表-3 商店街別選択理由 (休日)

選択理由	(%)				
	買物の商品に合せて	商品の価格・質がよい	商品の種類・豊富さ	商店の雰囲気	その他
駅前	15.3	8.5	28.4	8.8	38.9
広小路	33.3	7.4	13.0	5.6	40.7
その他	20.7	20.7	10.3	6.9	41.4
計	17.9	9.2	25.3	8.3	39.3

と商品の豊富さ」と答えた人が28%と多い。広小路では、買回り品が70%を占め、「買物の商品に合わせて」と答えた人が33%と多い。つまり、駅前に大型店舗が集中していることから、大型店舗指向が強く、広小路は駅前に隣接した専門店で買回り指向が強いといえる。

次に平日における買物客の利用商店街、商店街別の品目、商店街別の選択理由を示したのが、それぞれ図-3、表-4、表-5である。平日における1番目の利用商店街は、休日以上に駅前利用の割合が高い。2番目の商店街へ回遊する人は、全体の37%で休日と変わらないが、駅前64%、市民市場21%の順で、市民市場の利用割合が増えている。品目と選択理由からみると、駅前では、休日同様大型店舗指向が強い。また、市民市場では、最寄り品が76%を占め、「商品の種類と商品の豊富さ」と答えた人が43%と多く、生鮮食料品を中心とする商店街であるためと考えられる。全体として平日は、休日に比べて買回り品よりも最寄り品の利用が高いといえる。

以上、本報告では、自転車利用に関する買物特性について述べてきたが、平日・休日ともに駅前の利用が

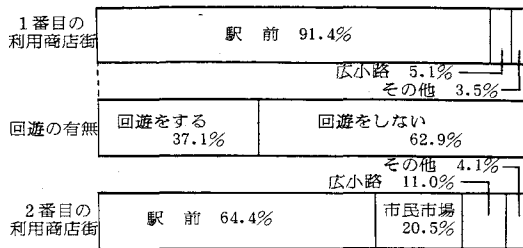


図-3 買物客の利用商店街 (平日)

表-4 商店街別品目 (平日)

品目	(%)			
	最寄り品	買回り品	飲食その他	計
駅前	48.5	42.7	8.8	100.0
市民市場	76.2	19.0	4.8	100.0
その他	27.3	59.1	13.6	100.0
計	48.9	42.2	8.9	100.0

表-5 商店街別選択理由 (平日)

選択理由	(%)				
	買物の商品に合せて	商品の価格・質がよい	商品の種類・豊富さ	商店の雰囲気	その他
駅前	18.1	12.3	28.2	5.3	36.1
市民市場	14.3	23.8	42.9	0.0	19.0
その他	13.6	18.2	18.2	13.6	36.4
計	17.4	13.7	28.5	5.6	34.8

高い。駅前には2つの地下駐輪場が設置されているが、1つは、公営の有料駐輪場で、低料金にもかかわらず、30%程度の利用しかなく、他は、買物客を主な対象とする無料駐輪場で利用が高く、とくに休日において満車状態になるため、路上駐輪の原因となっている。そこで、昨今問題となっている路上駐輪の対策のひとつとして、有料駐輪場の利用を図るためにある金額以上の買物客には、駐輪料金を無料にするという対策も考えられる。もしも、その対策が導入されたらという調査に対して、70%以上の人が賛成と答え、そのうち80%以上の人がおおいに利用したいと答えていることにより、現状はきわめて利用率の低い駐輪場だけに路上駐輪の対策としてきわめて効果が期待できる。

(参考文献)

- 1) 秋田県 「秋田県商業圏域別近代化計画」
- 2) 清水、佐藤、堀越 「地方中核都市における交通手段選択行動に関する考察」
- 3) 清水、林 「地方都市における国鉄駅前駐輪場の利用特性」